

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション喜多町
所在地	(〒 940 - 2121) 新潟県長岡市喜多町2900番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
 住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう支援していく。
 情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023年 10月 1日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人	※管理者を含む
----------------	-----------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】 ()

実施日	西暦 2023年__11月__21日	出席人数 (合計)	(16) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (__3人) ■市町村職員 (__1人) ■地域包括支援センター職員 (__2人) ■地域住民の代表者 (__2人) □利用者 (__0人) ■利用者の家族 (__1人) ■知見を有する者 (__4人) ■その他 (3人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・運営方針・業務目標を明確にし、理解した上で業務を遂行し、事業所全体のケアの質向上を目指す。 ・個別研修の目標達成のためミーティングや研修等（外部研修含め）に参加し、成果などを情報共有し技術向上を図る。 ・BCP（業務継続計画）の見直しと対策と対応方法の訓練を行い、状況に応じた対応が出来るようにする。 ・事業所の活動が分かりやすい資料を作り、推進委員の皆様により深く事業所の活動内容を知っていただく。 ・推進会議で意見交換の時間が有効にできるように見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングや研修等で職員へ周知と理解を図った。 ・個別研修は上半期評価をし、成果を確認した。 ・感染症の対応策を見直した。ガウンテクニック研修や、感染症発生の机上訓練を実施した。 ・推進会議の資料で状況報告や事例紹介など活動報告をした。 ・会議資料を先に送り確認してもらい会議の意見交換の時間を見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに理念・目標・計画を周知理解を図り、年度中にもミーティングで再確認している。 ・個別計画の目標達成に向けている。外部研修にも参加し情報共有を図った。 ・BCP の見直しを行った。対応方法について訓練を繰り返していく。また、その都度対策や対応方法なども見直す必要がある。 ・会議資料で活動内容を報告できた。ご意見やご要望を頂き、今後の活動に活かしていく。 『会議資料は丁寧に作成してある。事例紹介はサービスの特徴がわかりやすく良い。できれば目標や定期随時計画、どの場面でどのサービスと連携したか等わかると良い。事前に資料頂けて大変助かる。』と意見を頂く。
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントを考え危険防止に取り組む。 ・体調や状況変化を早期把握し、早期対応、援助（計画書）の見直しを行い、状態悪化を防ぐ ・その人らしい暮らしが出来るように、そ 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな気づきなどもヒヤリハットに挙げ危険防止を共有した ・ヒヤリハットから危険予測を考え援助方法を見直した。 ・毎月のモニタリングを実施し、必要時には計画の見直しを図った。 ・ヒヤリハットを共有し危険防止に繋がっている。同じ内容のヒヤリハットが繰り返され、対策の見直しや徹底を図っていく。 ・危険予測を考えることや利用者カンファレンスをミーティングで行った。援助

		<p>の人の想いを知り、出来ることに着目し、職員間で共通認識を持ち、自立に向けた支援に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の利用者のカンファレンスを実施しその人を知ることと援助方法を見直し統一した。 ・アセスメント項目を深め各職員が担当利用者 1 名について実施するよう取り組んでいる途中。年度末に分析できるように進めている。 	<p>内容確認や見直し、利用者の想いを考える機会になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの実施は内容や方法が難しく全員が取り組むことが出来ていない。今後は方法を見直していく。 <p>『ヒヤリハットが多く挙がる事は良い。利用者個々の援助方法の見直しも良いが、その内容を集計・分析することで環境整備や業務改善等に活かせると良いと思う。』とご意見と頂く。</p>
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22~27)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングやカンファレンスで意見が出やすく共有できるように工夫、ケアの質向上につなげる。 ・ICTを活用して多職種と早期に情報共有ができ、より良いケアに繋がるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の利用者についてカンファレンスを実施し課題評価、検討した。援助内容の見直し統一繋がった。 ・毎月のミーティングで利用者の状況や援助内容について話し合う。 ・研修で得たことから援助方法の改善に繋がった。 ・フェニックスネットで多職種との情報共有を図り早期に対応するように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人の利用者についてカンファレンスを実施し深く考え想いを知る機会になりより良いケアに繋がっている。カンファレンス表で可視化することで共有できる。多方面の視点から考える力をつけるため継続していく。 <p>『カンファレンスでは積極的に多くの職員から意見が出ますか。』とご意見頂く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議前に職員の意見をカンファレンス表に記入してもらうようにしている。 ・毎月のモニタリングを実施し、必要時には計画の見直しを図った。 ・研修で得た内容を援助方法の見直しに活かした。 ・フェニックスネットを活用し多職種と早期に情報共有を図った。

<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地域への回覧を継続し、定期随時の情報と、地域の方がほしい情報を発信する。 ・推進会議で有効に意見交換ができるように資料配布を先に見てもらい進め方を工夫する。 ・地域へ参加し、顔の見える話しやすい関係作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特養こぶしの情報も含めてサポートセンターからの回覧を作成し季節ごとに発信した。認知症についてひとこと情報を加えた。 ・推進会議の資料を先に配布し会議での意見交換ができるように工夫した。 ・地域のクリーン作戦に参加できた。積極的な活動参加には至らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターとして回覧内容を見直し、地域へ情報発信できた。 ・クリーン作戦参加や推進会議で地域との関りを作る事ができている。今後は地域の意見や要望を聞きながら情報発信や連携が図れるよう、地域活動方法を検討していく。 『中から発信することは良い事と思う。地域の行事に参加することも有効だが忙しい中時間も取れないと思う。普段の挨拶やちょっとした話から関係ができると良いと思う。』意見いただく。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調変化時、緊急時、災害時等において、的確に判断できるように、研修、ミーティング等通じて技術向上を図り実践につなげていく。 ・ご利用者の声をお聞きし、自分らしく暮らせているか計画書に沿ってアセスメントを行い、安心して在宅生活が継続できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の研修と、外部研修にも参加して共有している。 ・看取り事例の振り返りを行った。 ・災害時の連絡網訓練を実施した。 対応方法シミュレーションが必要である。 ・年1回アンケートを実施し、ケアマネジャー、ご利用者ご家族からの意見をお聞きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看取り事例の振り返りを通して今後の看取り対応方法等を可視化していく。 ・災害時の利用者個々の対応方法について安否確認表にまとめ活用している。内容更新や見直しをしている。今後はシミュレーションも必要と考える。 ・ACPについて研修し実践に活かせるようにしていく。また地域への情報発信や活動にもACPも取り入れていく。 ・アンケートにより安心して生活できているとのご意見を頂いており今後もより良いケアの提供のため努力していく。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>1. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務目標・計画の周知理解を図り、目標に向けて計画実施しケアの質向上につなげるよう努めた。 ・個別目標達成に向けて実施した。外部研修にも参加し情報共有を図りケア資質向上につなげた。目標達成に至らない場合は次年度に向けて計画していく。 ・BCP（業務継続計画）の見直しを行い、訓練を実施し確認できた。その都度対策や対応方法を見直ししていく必要がある。 ・推進会議資料では状況報告や活動内容、事例紹介等わかりやすく報告できた。資料を先に確認していただくことで会議での意見交換がスムーズに行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・運営方針・業務目標を明確に、研修やミーティングを通して理解し、事業所全体のケアの質向上を目指す。 ・個別研修の目標達成のため研修等（外部研修を含む）に参加し、成果等を情報共有し技術向上を図る。 ・BCP（業務継続計画）、災害計画を確認しシミュレーション実施する。対策や対応方法等を見直し状況に応じた対応ができるようにする。地域の災害対策の確認をしていく必要がある。 ・推進会議では事業所の状況や活動報告を資料にて報告し、会議では意見交換を図り、地域の要望や意見等を聞き地域が必要とする情報提供の活動へ繋げていくようにする。
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの意識やヒヤリハットにあげることが定着している。ヒヤリハット内容共有、防止対策ができ安心したサービス提供につながっている。今後も継続していく。 ・ヒューマンエラーから分析、傾向を見る事が出来た。 ・ヒヤリハットから利用者の危険予測を考え早期対策を検討し共有した。今後も危険予測トレーニングを継続していく。 ・利用者カンファレンスを行い、課題検討し援助内容の見直しにつながった。利用者の想いを考える機会になった。 ・利用者をより深く知るためのアセスメント力向上の取り組みは職員に偏りがあり共有することがうまくできなかった。今後は方法を見直ししていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況や特性、環境等を知り、危険防止に取り組む。 ・利用者の体調や生活状況等全般を多方面から見て把握でき、職員間で共通認識し、利用者の自立した生活が継続できる支援に取り組む。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス表で可視化でき利用者の想いを考え意見を出し合い統一したえ援助やより良いケアに繋がっている。多方面の視点から考える力をつけるため継続していく。多職種からの意見や助言も確認できるようにしていく。 ・毎月モニタリングを実施し必要時には計画見直しを行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況をミーティングやカンファレンスで共有し、課題や援助の見直しなど検討し統一したケアにつなげていく。 ・ICTを活用し多職種・多機関と情報共有をして状態変化への専門的助言や早期対応につなげていく

		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用し多職種と情報共有し変化に対して早期に適切な対応ができより良いケアにつなげた。 	
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28~32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時とサポートセンターの情報をまとめ、回覧内容を見直し、年4回地域へ情報発信を行った。 ・年2回推進会議を開催でき、地域の意見や要望を聞くことができた。地域活動にも参加し地域との顔の見える関係作りの第1歩になった。 <p>今後は地域の意見や要望を聞きながら情報発信や連携が図れるよう、地域活動方法を検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時の啓発やサポートセンターの活動内容や介護情報等をまとめ回覧を作成し、地域への発信を継続する。回覧地域を広げていく。 ・推進会議を通して意見交換し地域の意見や要望を聞き、サポートセンターや事業所ができること、連携できることを検討していく。 ・地域へ活動参加や情報提供する機会を作り地域との関りを深めていく。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・看取り事例の振り返りから利用者家族の想いを考える事ができた。災害時の安否確認がスムーズに行えた。地域の災害対応等を確認する必要がある。 ・利用者家族の声を聞き想いに寄り添いながら在宅生活継続のため支援を続けた。状態に合わせた柔軟な対応をその都度ケアマネや関係機関とも相談し、計画の見直しを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況変化時、緊急時、災害時等において、的確に判断できるように、研修、ミーティング等で技術向上を図り、実践につなげていく。 ・ご利用者の声をお聞きし、安心して在宅生活が継続できるように状態に合わせて柔軟に対応し支援する。